



| | |
|--------------|---|
| Title | 被災地の復興支援と遺跡資料リポジトリ |
| Author(s) | 菅野, 智則 |
| Citation | |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/23251 |
| rights | |
| Note | |

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

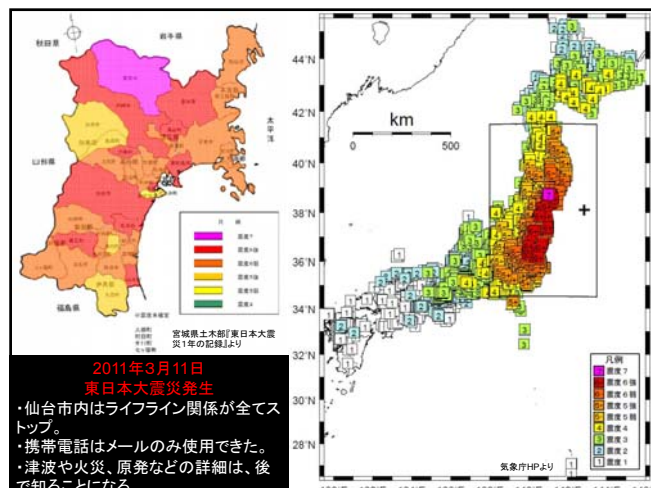
The University of Osaka

被災地の復興支援と遺跡資料リポジトリ



2011年4月13日撮影
宮城県南三陸町魚竜館

菅野智則
(東北大学埋蔵文化財調査室)



2011年3月11日
東日本大震災発生
・仙台市内はライフライン関係が全てストップ。
・携帯電話はメールのみ使用できた。
・津波や火災、原発などの詳細は、後で知ることになる。

自宅の状況

本棚を含めた家具類は倒壊し、あらゆるものが散乱している。本を靴で踏みつけて移動するような状況となる。

片付けを少しずつ進めていたが、4月7日の余震(マグニチュード7.2・最大震度6強)で再度崩壊。



東北大学埋蔵文化財調査室



(2011年3月11日撮影)



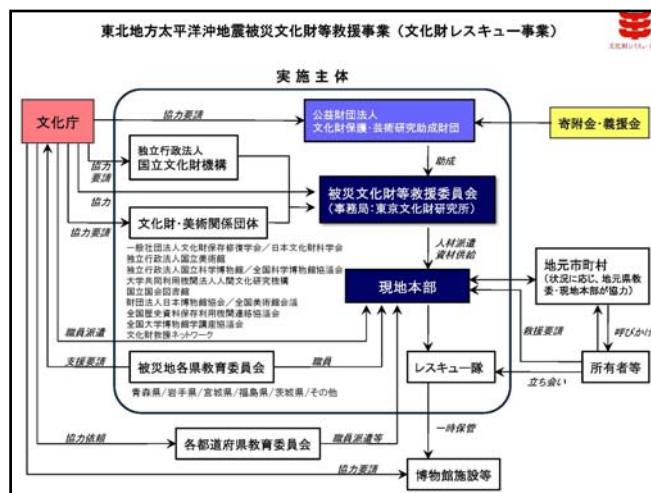
(2011年3月11日撮影)

・とくに大きな被害は無く、物収納コンテナ12箱が転落した程度に留まる。書籍類は書棚から一部落下したのみ。

・棚類は壁や床に全て固定していたため倒壊することはなかった。

・「棚ガード」設置済みの棚に収納していたコンテナは、全て落下せず。

被害が軽微であったことから、ほかの被災地の支援に回ることができた。



東北大学埋蔵文化財調査室による文化財レスキュー活動

- ・2011年4月13日 宮城県南三陸町 魚竜館
- ・5月12日 宮城県石巻市 石巻文化センター
- ・5月31日、7月5～7日 宮城県東松島市 野蒜収蔵庫
- ・6月21日 宮城県女川町 マリンパル女川
- ・6月23～26日 宮城県石巻市(旧鮎川町) 文化財収蔵庫
- ・7月後半以降 石巻文化センター収蔵遺物水洗作業

現在は、宮城県考古学会に設置された「東日本大震災対策特別委員会」に参加中。

宮城県における大規模な文化財レスキューが一段落して

指定を受けたものを中心として、文化財の救出活動は進んでいる。現在、修復や保存処理が進められつつある。

しかし、「文化財」そのものの以外、例えば遺跡発掘調査報告書などの蔵書類の処置は遅れているように見受けられる。

それ自体文化財ではない蔵書類の被害状況について確認した。



東北大学附属図書館

学生閲覧室

書庫

東北大学附属図書館の被害状況

多くの図書が落下したが、棚自体は大丈夫であった様に見受けられる。

→宮城県沖地震に備えての耐震化の成果と考えられる。

写真提供 東北大学附属図書館

東北大学附属図書館

①落下冊数

開架図書 14万冊(20万冊中)70%
閉架図書 25万冊(100万冊中)25%
製本雑誌 35万冊(40万冊中)88%
貴重図書・古典資料など 13万冊(65万冊中)20%
計 87万冊(225万冊中)39%

②書架に戻す作業

3月15日(火)～5月2日(月)33日間
延べ人数:本館職員951人+ボランティア613人=計1,564人

③破損冊数

一般図書1,000冊、製本雑誌1,300冊、貴重図書300冊

④対処

- ・専門業者による修復(上記冊数のうち、一般図書900冊、製本雑誌1,200冊、貴重図書全点を業者に委託)
- ・簡易な修復で済むものは、職員とボランティアで行う。損傷の激しいもののうち、**入手可能なものは買い替え**。

現在、建物復旧工事と合わせ順次作業中。



東北大学文学研究科考古学研究室

考古学研究室 准教授室

撮影 鹿又喜隆准教授
3月16日撮影

考古学研究室 准教授室 現状



撮影 鹿又喜隆准教授

棚を壁などに固定したほかに、落下を防ぐための紐等を設置するだけで大きな効果がある。



2012年1月26日撮影



石巻市文化センターの蔵書

・図書の「汚れ」は落とせるが、固着してしまったものはどうしようもない。そうしたものについては廃棄する方針。

・どの程度、救出できたのかまだ不明だが、今後、継続的な活動が必要。
→「宮城歴史資料保全ネットワーク」により作業が続けられている

・しかし、報告書類を含めた図書環境を復旧させるのは優先順位が低いため、抜本的な作業は不可能。

この図書カードは、「被災文化遺産支援コンソーシアム(CEDACH)」にてデータ化が進められている。

被災地における研究環境の復旧

被災地支援の一つとして、これらの蔵書類等を含めた研究環境復旧への支援も必要であると考える。

このような研究環境が無いと、地元文化財の価値を見極めることは困難となる。この支援を通じて地域的な拠点の復旧へと繋げたい。

遺跡リポジトリの観点から支援を考えるならば、

①報告書の活用と、②刊行物の流通
という二つの目的が考えられる。

遺跡リポジトリの活用①－報告書の利用－

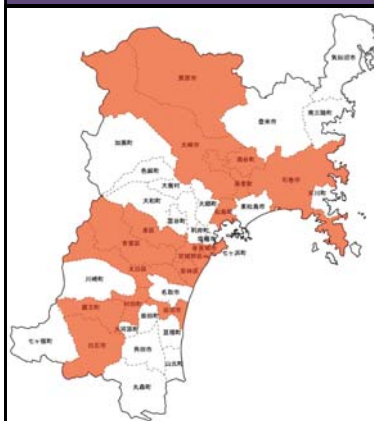
現在購入できる図書は、予算の問題があるが、購入できないことはない。問題は、購入できない図書である。そのような例として、考古学では報告書がある。

報告書については、日本各地からの寄贈(送付)も可能であろうが、これまで収蔵していた博物館等施設の建設計画はまだ無く、収蔵する場所も整理する人員も足りない。

しかし、今後の調査研究とくに震災復興関連の調査などにおいて、使用する機会が増えることが想定される。

当面、関連諸機関が支援することは当然として、電子化された報告書の利用は非常に有益。

遺跡リポジトリの活用①－報告書の利用－



・宮城県内の報告書を活用できるように、県内の関連機関に積極的な働きかけを行った。その結果、宮城県、仙台市等13自治体(合計約1000冊分)から協力を得ることができた。今後、さらに働きかけを進める予定。

東北大学(埋蔵文化財調査室・考古学研究室)所蔵報告書を登録しても良いのだが、まずは個々の自治体で意識的に参加をしてもらい、継続的な活動へと繋げていきたい。

遺跡リポジトリの活用②－刊行物の流通－

津波などにより刊行した報告書類が失われてしまった場合、許可を得て、近隣機関あるいは大学図書館等で所蔵している該当報告書を遺跡リポジトリとして公開する。

バックアップとしての意味合いもあるが、失われた刊行物を社会に流通させるための手段としても有益である。

東北大学附属図書館と共に、石巻市教育委員会刊行報告書類について遺跡リポジトリに登録する作業を開始した。

・東北大学(埋蔵文化財調査室・附属図書館等)所蔵の報告書類を遺跡リポジトリに登録する。
・所蔵していない報告書類については、様々な機関等から協力を得て入手する。